



平成 22 年 11 月 8 日

各 位

会社名 株式会社日本製鋼所
代表者名 代表取締役社長 佐藤 育男
コード番号 5631
東証・大証・名証第一部、福・札証
問合せ先 総務部長 渡邊 健二
電 話：03-5745-2011
F A X：03-5745-2023

**平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値と実績との差異および
通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 22 年 5 月 10 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)の第 2 四半期累計期間業績予想値と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 10 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値と実績との差異(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	87,500	9,500	9,000	4,500	12 円 12 銭
実績(B)	97,925	12,247	12,728	7,244	19 円 52 銭
増減額(B-A)	10,425	2,747	3,728	2,744	-
増減率(%)	11.9%	28.9%	41.4%	61.0%	-
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	102,688	18,181	18,050	10,175	27 円 41 銭

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	75,000	9,000	9,000	4,700	12 円 66 銭
実績(B)	81,651	11,504	11,919	6,737	18 円 15 銭
増減額(B-A)	6,651	2,504	2,919	2,037	-
増減率(%)	8.9%	27.8%	32.4%	43.3%	-
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	90,843	17,660	17,638	10,416	28 円 06 銭

(3)業績予想値と実績との差異の理由

売上高につきましては、素形材・エネルギー事業の一部製品において下期からの前倒しがあったほか、プラスチック射出成形機の大幅な受注増加に伴う売上増加により、前回予想を上回りました。

利益につきましては、売上増加に伴う利益の増加のほか、変動費改善及び固定費圧縮などの原価低減活動の継続効果や、エネルギー関連部材及びプラスチック射出成形機を中心とした生産量の増加に伴う稼働率の向上により、連結・個別ともに営業利益、経常利益、四半期純利益がそれぞれ前回予想を上回りました。

2. 平成23年3月期通期業績予想の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1)連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	208,000	25,500	25,000	14,000	37円72銭
今回発表予想(B)	222,000	28,000	28,000	15,500	41円76銭
増減額(B-A)	14,000	2,500	3,000	1,500	-
増減率(%)	6.7%	9.8%	12.0%	10.7%	-
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	201,680	32,185	31,246	17,528	47円22銭

(2)個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	182,000	24,000	24,000	13,300	35円83銭
今回発表予想(B)	191,000	26,000	26,500	14,500	39円07銭
増減額(B-A)	9,000	2,000	2,500	1,200	-
増減率(%)	4.9%	8.3%	10.4%	9.0%	-
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	175,333	29,911	29,243	16,665	44円90銭

(3)業績修正の理由

中国を中心とした新興国に成長の力が強まり、世界経済は緩やかな回復傾向にあるものの、円高の影響及び景気減速懸念等、依然として予断を許さない厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループの通期売上高につきましては、豊富な受注残の順調な消化と、特に産業機械事業においては、新興国を中心とした需要環境の回復傾向の中、樹脂製造・加工機械及びプラスチック射出成形機の受注が堅調で期中の売上が見込めることから、当初業績予想に対して増加する見通しです。

また、損益面につきましても、変動費改善及び固定費圧縮などの原価低減活動の継続効果や、エネルギー関連部材及びプラスチック射出成形機を中心とする生産量の増加に伴う稼働率の向上により、連結・個別ともに営業利益、経常利益、当期純利益は当初業績予想を上回る見通しです。

(注)本資料に記載された予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上